

**SPRINT™ with SupaScan – レニショー発の新オンマシン接触式スキャニングテクノロジー**

世界トップレベルのエンジニアリング企業であるレニショーは、受賞歴のあるオンマシンスキャニング用 SPRINT 製品類の新製品を EMO Hannover 2017（9 月 18 日～23 日、ドイツ開催。第 6 ホールの B46 スタンド）にて展示します。

新製品の SPRINT with SupaScan は、ワークセットアップを非常に速く行う必要があり、全体のサイクルタイムが重要である工作機械アプリケーションに簡単に組み込めるよう作られているため、大量生産市場にスキャニングテクノロジーの恩恵をもたらします。また、ワーク表面の仕上げ状態のモニタリングといった、高度なスキャニング機能も実現します。

**世界最速のワークセットアップサイクル**

SupaScan テクノロジーでは、早送り (G0) であっても正確に計測するワークセットアップサイクルを実現できるため、主軸プローブを用いたワークセットアップとしては最速を誇ります。一般的な工業部品を用いたテストでは、標準的な高速タッチトリガーサイクルに比べてサイクルタイム 70% 以上短縮という結果がでています。

この新システムでは、現行の SPRINT システムのハードウェアをそのまま使用しており、そこに新製品のデータプロセッサー DPU-1 がシステム統合の簡素化を目的として組み込まれています。この DPU-1 により、最低限のコントローラオプションと機械接続のみでシステム統合が可能になっています。また、マクロサイクルが付属しており、このサイクルを使用すると線計測、円計測および平面計測をもとにワークのオフセットやアライメントを行うことができます。さらに、レニショーの Inspection Plus のマクロサイクルとも互換性があるため、タッチトリガープローブを使用した既存のパーツ計測プログラムを再プログラミング費用をかけることなく利用することもできます。

このシステムには独自の 3D センサーテクノロジーが採用されており、平面におけるばらつき（最高点や最低点）を計測することもできます。そのため、再生修理加工において一般的な要件である、ワークの最も浅い部分を基準にしたワーク位置の設定が可能です。

**表面欠陥の高速検出**

SPRINT with SupaScan では、摩耗し切れ味の悪いツールや、切刃同士のミスマッチ、ステップオーバーエラーによって生じる欠陥など、表面状態の欠陥の検出が行えます。このような計測を機上で自動化することで、計測の再現性を大幅に向上することができ、ワークを治具に固定したまま不具合を修正することも可能になるため、スクラップの低減さらには収益の最大化につながります。

これらの結果は、新規開発の「Surface condition」アプリで確認することができます。このアプリは、CNC 工作機械コントローラか接続した Microsoft® Windows® PC にインストールして使用し、ワーク表面全体の計測データを確認できます。

SPRINT with SupaScan は、自動車、家電といった市場で必要な、高速・正確・高繰り返し精度のワークセットアップが要求されるアプリケーションにおいて最適な選択肢であり、大幅なサイクルタイム短縮に貢献します。

詳細については、[www.renishaw.jp/mtp](http://www.renishaw.jp/mtp) をご覧ください。

以上